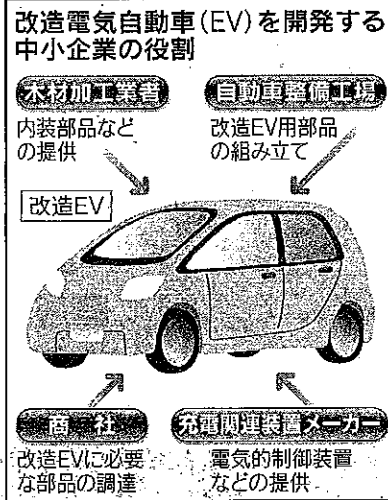


ガンリン車、EVに改造

金沢区の中小グループ 来春に試作車

横浜市金沢区の中小企業約10社が連携してガンリン車を電気自動車(EV)に改造する事業に乗り出す。モーターや車体用素材の開発、製造などを手がける企業が協力して、試作車を2012年3月にも完成させる。景気回復の遅れから経営環境が厳しい中小企業もある中で、必要な部品を地区内の企業が連携して調達しEVに仕上げることで地域の活性化にもつながりそうだ。

地区内で部品調達



3月にも「よこはま・金沢カスタムEV開発中小企業連合」を発足させる。約10社でスタートするが参加企業は今後も増える見通し。

参加するのはモーターの開発メーカーや車体用の素材製造を手掛ける企業、ガンリン車の改造を手掛けた実績のある自動車整備会社など。内装部品の開発を手掛けるミナロ(横浜市、緑川豊司社長)が連合の代表を務める。

各企業はEV用の部品を開発するだけでなく、参加企業だけでは開発が難しい場合は必要な部品を各社のネットワークなどを通じて調達する。緑川社長は「参加する中小企業の結束を図ることで改造EVの開発を成功させたい」と話している。

3月から各企業が協力して試作車の開発に取り組み計画だ。軽自動車や軽トラックをEVに改造することを想定している。地区内にある自動車整備工場やガンリン車からエンジンや燃料タンクなどを取り外し、EVに

必要な部品を取り付ける。一般的なEVで使われているリチウムイオン電池よりも安価な蓄電池を使うなどして、改造費用を100万円程度に抑えることを狙っている。

金沢区には約1千社の中小企業が集積する市内有数の産業団地がある。市は同区を低炭素型社会を目指すモデル地区に指

定しており、温暖化ガスの排出削減に向けた動きは活発だ。EVのカーシェアリングのモデル事業も多し。

景気低迷の影響を受けて経営環境が厳しい中小企業もある中で、今回の連合は地域内の経済活性化につながりそうだ。